**ウルグアイ内政・外交（2014年7月）**

1. 内政
   1. 政府，議会の動向

ア　８日，上院は国会審議中の「オーディオビジュアル通信サービス法」（通称メディ

ア法）につき，フランク・ラ・リュー国際連合特別報告者（表現の自由担当）と会

談した。

イ　１６日，組織犯罪法廷は，公共保健サービス公社（ASSE）における汚職の疑い

で，アルフレド・シルバ・ASSE従業員労働組合委員長ほかの逮捕・起訴を命じ

た。今次の逮捕・起訴は，ASSE所管の病院において，院内の清掃を請け負って

いる業者が就業時間を実際よりも長く申告し，清掃経費を水増し請求していた疑

いに係るもの。

ウ　２２日，ムヒカ大統領及びベルガラ経済財務相は，財政包括法第１９２１０号及

び１９２２８号にもとづき，８月１日より付加価値税の引き下げを実施する政令に

署名した。

エ　３１日，リリアム・ケチチアン観光スポーツ相，ベルティル・ベントス・パイサンドゥ

県知事及びアルバロ・カンパ・サルト県知事は，観光分野でのヴァリュー・チェー

ン強化に係る行政組織間協定に署名した。

オ　１０月の総選挙で下院議員に立候補するため，任期満了前に辞任した県知事は

次の通り。ベンハミン・イラサバル（ドゥラスノ），アルマンド・カスタインデバ（フロ

レス），オスカル・デ・ロス・サントス（マルドナド），オマル・ラフルフ（リオ・ネグ

ロ），ギジェルモ・ベソッシ（ソリアノ）。憲法の規定により，現職の県知事が下院

議員候補になるためには，総選挙実施の３ヶ月前（今次の場合は７月２６日）ま

でに辞任しなければならない。

* 1. 与党FAの動向

２６日，FA全国審議会は，タバレ・バスケス前大統領，ラウル・センディック前

ANCAP総裁の両者をそれぞれ大統領候補，副大統領候補として公式に承認した。

また，前年より党内で議論，準備されてきた基本政策綱領が公式に承認された。

* 1. 野党の動向

ア　１４日，コロラド党は記者会見でヘルマン・コウティニョ・サルト県知事を副大統領

候補に選出した旨正式に発表した。

イ　２６日，国民党全国審議会は，ルイス・ラカジェ・ポウ下院議員，ホルヘ・ララニャ

ガ上院議員をそれぞれ大統領候補，副大統領候補として公式に承認した。ま

た，１０項目からなる政権綱領が公式に承認された。

（４）世論調査

７月に当地主要世論調査会社が実施した政党支持に関する調査結果は次の通り。

ア　質問項目：「次の大統領選挙であなたはどの政党に投票しますか」

イ　回答集計結果

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | FACTUM社 | INTERCONSULT社 | EQUIPOS社 |
| FA | ４２．０％ | ３９．０％ | ４２．０％ |
| 国民党 | ３０．０％ | ２９．０％ | ２７．０％ |
| コロラド党 | １４．０％ | １５．０％ | １３．０％ |
| 独立党 | ３．０％ | ２．０％ | １．０％ |
| その他 | ２．０％ | １．５％ | １．０％ |
| 白票又は分からない | ９．０％ | １４．０％ | １６．０％ |

1. 労働関係

１日，全国労働総同盟（PIT-CNT）執行委員会はFAバスケス大統領候補及びセンデ

ィック副大統領候補ほかと会談，所得税中に占める非課税額の引き上げ，年末手当及び休暇手当の課税対象からの除外等の提案を行った。

　　 （６）その他

２３日，モンテビデオ県庁にて県知事会（Congreso de Intendentes）が開催され，

県知事会長がアルマンド・カスタインデバ・フロレス県知事からアルティガス・バリ

オス・ロチャ県知事に交替した。

1. 外交
   1. 要人往来

ア　ポルト外務次官のキューバ訪問

３～４日，ルイス・ポルト外務次官はキューバを訪問し，第七回ウルグアイ・キュ

ーバ政策協議会合に出席した。

イ　ムヒカ大統領のＢＲＩＣＳ首脳会合出席

１６日，ムヒカ大統領は，ブラジリアで開催された第６回BRICS首脳会合第二巡

目会合に出席し，平等，地球環境問題，社会的包摂等のテーマにつき演説し

た。

ウ　ムヒカ大統領のパラグアイ訪問

１８日，ムヒカ大統領はパラグアイを訪問，オラシオ・カルテス・パラグアイ大統領

と会談し，ロチャ県深水港建設へパラグアイが参加するためのワーキンググル

ープ創設，ウルグアイ・パラグアイ二国間関係再活性化，両国株式市場の協力

にかかる二国間協定に署名した。

　　　　　　エ　サルグシャン・アルメニア大統領の来訪

８～１０日，セルジ・サルグシャン・アルメニア共和国大統領が当国を訪問し，ス

ポーツ，経済，出入国査証等に関する二国間協定に署名した。

オ　リベロス・チリ外務次官の来訪

２２日，エドガルド・リベロス・チリ外務次官が当国を訪問し，ポルト外務次官とと

もに第１０回ウルグアイ・チリ政策協議メカニズム会合に出席した。

カ　　アジェンデ・ブシ・チリ上院議長の来訪

２４日，イサベル・アジェンデ・ブシ・チリ上院議長が当国を訪問し，ムヒカ大統

領と会談した。

　　　（２）二国間関係

ア　８日，アルマグロ外相とシバニ・アッバス駐ウルグアイ・サハラ・アラブ民主共和

国大使は，ウルグアイ東方共和国・サハラ・アラブ民主共和国二国間協力枠組

協定に署名した。今次枠組協定は，２００５年１２月２６日ウルグアイがサハラ・ア

ラブ民主共和国を公式に承認し外交関係を結んで以来最初の二国間協定とな

る。

イ　１６日，ムヒカ大統領はブラジルにおいて，BRICS首脳会合出席のため同国を訪

問中のプーチン露大統領と会談した。会談では，ロチャ県大西洋岸における深

水港建設計画への露の参加，サルト・グランデ水力発電所近代化にかかる資

材の露からの購入，鉄道用及び海防用資材の露からの購入，ウルグアイから

露への牛肉輸出等のテーマにつき話し合われた。

ウ　２１日，外務省プレスリリースは，ブラジルとの間で二国間国境委員会を８月より

開催する旨発表した。右委員会開催のため，１５日にはアルマグロ外相を座長

とする準備調整会合が行われた。

エ　２４日，外務省プレスリリースは，アンゴラ共和国にウルグアイの公館を開設す

る旨発表した。外務省は，初代公館長としてアルバロ・エンリケ・ゴンサレス・オ

テロ氏を派遣すべく，同人事を議会に諮った。

（３）国際機関関係

ア　２日付大統領府プレスリリースは，第５７回世界観光機関（UNWTO）アメリ

カス地域委員会（６月２５日にコロンビアにて開催）において，当国プンタ・デル・

エステに所在するコンベンション・センター及び展示会場が通年観光の範例とし

て評価されたと発表した。

イ　９日，エンリケ・ガルシア・アンデス開発公社・ラテンアメリカ開発銀行（CAF）総裁

は，ムヒカ大統領及びカネパ大統領府副長官と会談した。

ウ　１４日，国際連合武器貿易条約（２０１３年４月２日総会にて採択）がウルグアイ

議会にて可決承認された。

エ　１６日，アンデス開発公社・ラテンアメリカ開発銀行（CAF）は当地にて『グローバ

リゼーションの時代におけるラテンアメリカ』出版記念会を開催した。右書籍はエ

ンリケ・イグレシアス元米州開発銀行総裁（ウルグアイ人）の功績を称えたエッセ

イ集。

オ　２９日，当国政府は国際連合食糧農業機関（FAO）との間で協定を締結した。右

協定は，遺伝子組み換え作物の栽培を行う上でのバイオセーフティレベルを高

めることを目的としたプロジェクト（TCP/URU/3403）実施に係るもの。

（４）シリア問題

１日，ミランダ大統領府人権事務局長はシリア難民受け入れにつき記者会見し，本年９月末に４０人程度，２０１５年２月末に８０人程度受け入れ予定である旨表明した。

　　　（５）イスラエル・パレスチナ紛争

ア　１日付大統領府プレスリリースは，ヨルダン川西岸地区におけるイスラエル人の

若者３人の殺害に関し，犠牲者への哀悼の意と殺害行為を非難する声明を発

表した。

イ　２日付外務省プレスリリース及び３日付大統領府プレスリリースは，東エルサレ

ムにおけるパレスチナ人の若者の殺害に関し，殺害行為を非難するとともに，紛

争当事者が暴力のエスカレートを防ぐべく最大限努力するよう要請する声明を発

表した。

ウ　１７日付外務省プレスリリースは，イスラエル・パレスチナ紛争における暴力のエ

スカレートに関し，深い落胆の意（profunda consternacion）を表すとともに，紛争

当事者に対し直ちに軍事行動を中止するよう要請する声明を発表した。

エ　２４日，アルマグロ外相は，平和活動家でラジオ“All for Peace”共同代表のモ

シ・ラス氏（イスラエル人）と会談した。

オ　３１日付大統領府及び外務省プレスリリースは，ガザ地区におけるイスラエル軍

による国連運営学校の空爆に関し，市民を標的とする軍事行動を非難するとと

もに，紛争当事者に対し緊急かつ無条件に軍事行動を中止するよう要請する声

明を発表した。

　　　（６）メルコスール

ア　２１日，アルマグロ外相とオスカル・パストレ・メルコスール事務局コーディネータ

は，国道８号線改修工事に係る無償融資協定に署名した。右協定により，ウル

グアイ政府はメルコスール構造格差是正基金（ＦＯＣＥＭ）より約２，２２０万米ド

ルの融資を受けることとなる。

イ　２８日，ベネズエラ・カラカスにて第４６回メルコスール共同市場審議会（ＣＭＣ）

が開催され，ポルト外務次官が出席した。

ウ　２９日，ベネズエラ・カラカスにて第４６回メルコスール首脳会合が開催され，ムヒ

カ大統領が出席した。

　　　（７）ALADI

１６日，御厨邦雄・世界税関機構（WCO）事務総局長が当地を訪問し，ラテンアメリカ

統合連合（ALADI）本部において開催された「通商促進のための税関行政近代化」

セミナーに出席した。

1. 社会

（１）政治家の犯罪被害，犯罪

ア　ムニョス元厚生相は，バスケス大統領候補の選挙運動でセロ地区を訪問し，車

列で移動中，自家用車の窓ガラスを割られ，書類や現金の入ったハンドバック

を奪われた。

イ トゥルネ下院議員（元内務相）女性議員は，ラ・ブランケアーダ地区で信号待ちの際に，男１人に窓ガラスを割られ，助手席に置いてあったハンドバックを奪われた。男は近くで待機していた仲間と逃走しようとしたが，偶然近くに居た警察官らに逮捕された。

ウ　　マルビン・ノルテ地区に所在するミエレス独立党大統領候補宅に何者かが侵入し，TVやノートパソコン，宝飾品，携帯電話，現金などが盗まれた。

エ　　ミケリーニ上院議員は，ポシートス地区の自宅前で４人組に襲われた。警察は，同議員の車を奪おうとした犯人らに抵抗されたため拳銃数発を発砲した。同議員は右足に銃弾を受け負傷し，英国病院に搬送されたが，命に別状はない。

オ　 最近数年間で，現役閣僚や国会議員数名が，強盗犯罪被害に遭うケースが後を絶たない。アストリ副大統領，アブレウ上院議員，ララニャガ上院議員，マルティネス上院議員，センデック副大統領候補などが過去に被害に遭っている。

カ　　ドゥラスノ県議会議員の自宅からコカイン及び大麻が押収され，同議員が起訴された。さらに倫理裁判所へも送付される。また，同議員の甥も薬物犯罪で起訴された。

　　（２）治安関係

ア 夜間における交差点での防犯対策について，交差点で信号待ちの車を狙った強盗が後を絶たない現状から，モンテビデオ県庁及びモンテビデオ県警本部が夜間（午後９時～午前５時），交差点の一部において信号を作動停止させることを検討中である。同停止案は，２０１１年１０月に浮上していたが，今日まで実施には至っていない。

イ　今年４月に鑑識警察（Policia Tecnica）から改名した科学警察（Policia Cientifica）

は，血液や精子によるDNA鑑定の他，指紋照合や弾道（銃弾）分析により，昨年４

００件の事件を解決した。本年は既に２１１件の事件を解決している。なお科学警

察による昨年の事件・事故発生現場への出動件数は４，６００件（内１，３００～１，

５００件が交通事故）。また同警察は犯歴者２７０，０００人のデーターベースを所持

している。

　　（３）大麻規制管理

１日，当地主要紙は，大麻同好クラブ「CLUC」（Cultivando la Libertad Uruguay Crece）が教育文化省に対し会員制市民団体としての登録手続きを行ったと報じた。

(了)